

京 都 大 学  
高 等 教 育 研 究

第 11 号

---

京都大学高等教育研究開発推進センター

2005

# 目 次

## 第一部 論 考

### 研究論文

- 「ケース・メソッド授業における教師・学生間の相互作用に関する一考察  
——ビジネス・スクールにおける討論授業での教師の発話に焦点をあてて——」  
佐野 享子 筑波大学大学研究センター ..... 1

### 実践報告

- 「高大および地域連携による「総合的な学習の時間」——フリーサブジェクト「えひめ学」の試み——」  
岡部 美香 京都教育大学 ..... 13
- 「授業改善に向けた全学の取り組み——授業評価と授業改善計画書の一体化——」  
高橋 和子 横浜国立大学大学教育総合センター  
林 義樹 横浜国立大学大学教育総合センター  
種田 保穂 横浜国立大学教育人間科学部  
影井 清一郎 横浜国立大学工学部  
矢口 哲之 横浜国立大学教務課  
神崎 奈緒美 横浜国立大学教務課 ..... 19

### センター教員・共同研究者論考

- 「遠隔連携ゼミにおける学びの構造の構造化」  
酒井 博之 京都大学高等教育研究開発推進センター  
田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター ..... 33
- 「遠隔授業におけるコミュニケーションの特徴と学生の学びの検討——KNV実践の分析を通して——」  
杉原 真晃 京都大学大学院教育学研究科 ..... 67

## 第二部 記 録

### 「第11回大学教育研究フォーラム」

#### 大学教育評価——評価する側の論理——

開会の辞	林 哲 介 京都大学高等教育研究開発推進センター教授・副センター長	83
挨拶	尾 池 和 夫 京都大学総長	84
主旨説明	大 塚 雄 作 京都大学高等教育研究開発推進センター教授	85
基調講演	「これからの大学評価—評価を行う立場から—」 木 村 孟 大学評価・学位授与機構 機構長	87
話題提供 1	「認証評価制度の概要」 奈 良 哲 文部科学省高等教育局大学評価室長	105
話題提供 2	「大学評価の課題—評価機関の立場から—」 前 田 早 苗 大学基準協会大学評価・研究部部長心得	110
話題提供 3	「教育の効果を評価する」 吉 田 文 メディア教育開発センター研究開発部教授・GP実施委員会委員	118
話題提供 4	「評価する側の論理、評価される側の論理」 松 下 佳 代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授	124
全体討論		134
総 括	林 哲 介 京都大学高等教育研究開発推進センター教授・副センター長	144

(所属等はフォーラム開催時)

---

### 日 誌 等

高等教育研究開発推進センター日誌 (2004年9月～2005年8月)	147
高等教育研究開発推進センター業績 (2004年9月～2005年8月)	158
『京都大学高等教育研究』編集規定	165
『京都大学高等教育研究』投稿規定	165

## 『京都大学高等教育研究』編集規定

（平成16年4月1日改正）

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育研究開発推進センター（以下センター）が発行する研究誌である。
2. 本誌には、センター関係教員の論考、共同研究の報告その他センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する他、投稿論考を掲載する。但し、投稿論考については、当分の間、第4項に規定する編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものに限定する。
3. 本誌の編集のためにセンター教員で構成される編集委員をおき、編集委員会を開催する。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規定及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 編集委員会は、編集委員およびセンター学外研究協力者の中から査読委員を選出し、投稿された論考の査読を依頼する。
7. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
8. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。但し、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

（附則）本規定は、平成16年度発行の『京都大学高等教育研究』第10号から施行する。

---

## 『京都大学高等教育研究』投稿規定

（平成16年4月1日改正）

（全般）

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとし、かつ、当分の間、編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものとする。この責任の範囲については、投稿の前に、編集委員会に問い合わせること。
2. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告、センター教員・共同研究論考に区分される。研究論文は、学問的な手続きに基づいておこなわれた、高等教育に関する独創的・新規な研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考である。研究ノートは、高等教育研究への有益な資料となる論考である。実践報告は、高等教育研究への示唆となる、高等教育に関する実践の報告である。センター教員・共同研究論考は、京都大学高等教育研究開発推進センター（以下センター）の専任教員の論考もしくはセンターの研究に関わる共同研究者の論考である。
3. 論考は未発表のものに限る。但し、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考を投稿する場合、研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考のうち研究論文、研究ノート、実践報告は原則として以下の作成要領により、ワープロソフトによって作成

するものとする。

- ・ A4 版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
  - ・ 40文字×25行の1,000字を1頁とし、20頁以内の分量とする（図表、註、参考文献を含む）。
  - ・ 論文題名の後に題名の英訳及び英文200語程度の論文要約を付すこと。
7. 論考原稿3部（うち2部はコピー可）及び原稿を編集委員会に提出する。また、別紙として、氏名（ふりがな）、所属（職名その他を含む）、連絡先（郵便番号、住所、電話番号）、希望区分（研究論文、研究ノート、実践報告のいずれか）を記入した用紙を添付する。

（用語）

8. 論考は原則として日本語を用いて作成すること。但し、日本語以外の言語による投稿については、編集委員会に相談のこと。
9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。但し、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

（註・引用文献）

11. 註及び引用文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、註のあとにまとめてアルファベット順に記載する。論文の場合は、著者、発行年、文献題目（日本語文献の場合、「」内に記載）、雑誌名（日本語文献の場合、「」内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載）、巻号、頁の順に記載する。単行本については、1冊を引用対象とする場合、著者、発行年、書名（日本語文献の場合、「」内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載）、発行所、頁の順に記載し、一部分を引用する場合には、著者、発行年、引用部分の題目（日本語文献の場合、「」内に記載）、編者、書名（日本語文献の場合、「」内に記載。洋文献の場合は斜体字で記載）、発行所、頁の順に記載する。なお、訳書の場合は、原語の著者名、原書発行年、原書名（斜体字）、原書発行所名を書き、その後に（）内に訳者名、訳書の発行年、訳書名（「」内に記載）、訳書の発行所名の順に記載する。（下例を参照のこと）

—例—

・ 論文

大山泰宏 2002 「大学教育評価の課題と展望」『京都大学高等教育研究』7号, 37-56頁.

Hermans, H. J. 1970 A questionnaire measure of achievement motivation. *Journal of Applied Psychology*, 54, 353-373.

・ 単行本

讃岐幸治・田中毎実（共編）1995 『ライフサイクルと共育』青葉図書.

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the message*. Jerome Agel.

溝上慎一 2002 「学生の理解の枠組みをふまえた授業展開」京都大学高等教育教授システム開発センター（編）『大学授業研究の構想—過去から未来へ—』東信堂, 57-86頁.

Hermans, H. J. M. 1995 From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy*. American Psychological Association. 247-272.

McLuhan, M. & Fiore, Q. 1967 *The medium is the message*. Jerome Agel. (南博訳 1995 『メディアはメッセージである』河出書房新社.)

12. 引用文献と註を区別し、註は本文中の該当個所に、上付き文字で（1）、（2）…と指示し、論考末尾にまとめて記載する。
13. 引用文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名、出版年）として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c, …をつける。

例 ・田中（1995a）が強調するように、…という調査結果も提示されている（田中、1996）。

(その他)

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。但し掲載誌2部と抜き刷り50部を贈呈する。なお、抜き刷りについては、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。
15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。  
原稿締切日 7月31日
16. 掲載された論考の著作権はセンターに属する。
17. 本規定の改正は編集委員会が行う。

『京都大学高等教育研究』第11号 編集委員会

◎田 中 每 実      大 塚 雄 作      松 下 佳 代  
大 山 泰 宏      溝 上 慎 一      ○酒 井 博 之  
(◎印：編集委員長 ○印：編集事務担当)

平成17年11月30日 印刷

非売品

平成17年12月1日 発行

発 行 京都大学高等教育研究開発推進センター  
京都市左京区吉田二本松町 (〒606-8501)  
TEL 075-753-3087  
FAX 075-753-3045

印 刷 中西印刷株式会社  
京都市上京区下立売通小川東入ル  
TEL 075-441-3155

# Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 11

---

## CONTENTS

### I Articles

#### Papers

- Study of Teacher-Student Interactions in Case Method  
— Focus on Teacher Discourse in Business School Discussions — ..... Takako SAN0

---

#### Reports

- A Case Study on Free Subject “EHIME STUDY”  
— a Program of “Integrated Learning” with Cooperation among High School,  
University and Local Life-long Educational Facilities ..... Mika OKABE
- School-Wide Course Improvement and Course Evaluations:  
Report on Current Status of Program ..... Kazuko TAKAHASHI  
Yoshiki HAYASHI  
Yasuo TANEDA  
Seiichiro KAGEI  
Tetsuyuki YAGUCHI  
Naomi KANZAKI

---

#### Articles of Center Staff and Research Fellows

- Creating Learning Structures in an Online Joint Seminar ..... Hiroyuki SAKAI  
Tsunemi TANAKA
- Features of Communication and Learning in Distance Education in University  
..... Masaaki SUGIHARA

---

### II Documents

- XI th Forum of University Reform;  
University Evaluation: Viewpoints of Evaluators
- Opening Remarks ..... Tetsusuke HAYASHI
- Commencement ..... Kazuo OIKE
- Pointing out Problems ..... Yusaku OTSUKA
- Keynote ..... Takeshi KIMURA
- Presentation 1 ..... Tetsu NARA
- Presentation 2 ..... Sanae MAEDA
- Presentation 3 ..... Aya YOSHIDA
- Presentation 4 ..... Kayo MATSUSHITA
- Discussion .....
- Summary/ Closing Remarks ..... Tetsusuke HAYASHI

---

CENTER FOR THE PROMOTION OF EXCELLENCE IN HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2005